

1 趣旨

体験活動を通して、子ども食堂を利用している青少年の基本的な生活習慣や自立する力を育むことを目的に実施する。

2 期日

令和5年9月3日（日）

3 会場

国立磐梯青少年交流の家（福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1）

4 参加者

18名（小学生4名、中学生6名、高校生1名、保護者2名、団体ボランティア2名、団体スタッフ3名）

5 主な活動内容

（1）野外炊飯

参加者の多くが野外炊飯をするのは初めての体験であったが、班ごとに役割分担をして道具や材料を運び、意欲的に調理に参加しようとする姿が見られた。かまどの係になった参加者は、安全に留意しながら薪をくべることができ、それを指導者に称賛されたことで、自信をもって活動に取り組むことができた。また、ボランティアと協力しながら活動することを通して信頼関係を築くこともでき、その後の活動によりよい形で移行することができた。団体代表者からは「野外炊飯は難しいと思っていた。子供たちがこんなに積極的に活動するとは思わなかった。」という感想が寄せられた。



（2）ニュースポーツ（モルック）

簡単なルールで誰でも楽しむことができるモルックに取り組んだ。最初は、たくさんのスキttlを倒すことに夢中の参加者が多かったが、次第に狙いを定めて投げたり、投げ方を工夫したりする楽しさを見出して、より一層モルックを楽しむことができた。勝敗にこだわるあまり、落ち込んでしまう参加者も見られたが、参加者同士が励ましの声を掛け合いながら、ゲームを継続することができた。友達が投げ終わった時に、スキttlを元に戻す手伝いをしたり、「あと6だよ！」などの声をかけたりして、互いに交流を楽しみながら活動に取り組む様子が見られた。



6 事業の成果と課題

（1）成果

朝は緊張した表情の参加者が多かったが、活動を進める中でボランティアと打ち解け、場所にも慣れたりして、笑顔が見られるようになった。特に野外炊飯では、野菜を切る仕事やかまどの仕事に進んで手を挙げて取り組む意欲的な姿が見られた。また、そのような姿を指導者やボランティアに称賛されたことにより、参加者は自信をもって前向きな気持ちで活動することができた。

（2）課題

- 参加者の特性等について連携機関と情報を共有しながら、適切な配慮のもと活動が展開できるようにしていく必要がある。
- ねらいを達成できたかどうか客観的に把握するために、事業前と事業後に、自己肯定感に関する項目、基本的な生活習慣に関する項目についてアンケートをとるなど工夫したい。